

はじめに

令和3年度は、昨年度に新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて大部分が中止となった自然教室の復活や企画展の年3回の開催など、新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底しながら博物館利用者数の回復を目指して事業に取り組んでまいりました。

自然教室では、探鳥会や自然観察会、星空観望会、夏休みの子どもたち対象の昆虫教室、植物教室、地質探検教室、淡水魚教室を実施することができました。これらの教室ではこれまで毎回バスを利用して行っていたのですが、新型コロナウイルス感染症防止のために密集空間となるバス利用を控えて、市内中心部で比較的駐車場のスペースが確保できる亀山公園や萩尾公園、大原神社、月隈公園などを開催場所とさせていただき、参加者は個々で交通手段を考えて現地集合していただく形をとらせていただくことになりました。参加くださいました市民の皆様には大変ご不便をおかけいたしました。1年振りの開催となった各種の自然教室に参加くださいました皆様方は存分に自然を楽しんでいただけたのではないかと安堵いたしております。

しかしながら、依然として新型コロナウイルス感染症は拡大傾向が続き、博物館利用者数も令和2年度とほぼ変わらず、目標としていた博物館来館者数の回復は残念ながら果たすことはできませんでした。

令和4年度においても新型コロナウイルス感染症はオミクロン株の猛威が続いていますが、こうした中においても博物館が市民にとって興味を持って来館いただける施設となれるよう、より工夫した事業を実施してまいりたいと存じます。

令和4年6月

日田市立博物館長

《 目 次 》

はじめに

I	令和3年度の概要	1
1.	博物館の組織・運営体制	
2.	令和3年度入館者数の推移	
3.	令和3年度博物館日誌	
II	調査活動	5
1.	日田を流れる川の生物調査	
2.	天瀬町の自然環境調査事業	
III	教育普及活動	8
1.	展示事業	
1)	企画展開催事業	8
(1)	宇宙の絶景写真展	
(2)	水郷日田の川と文化展	
(3)	鍛冶の歴史と日田の鍛冶屋さん展	
2)	第59回 小・中学生自然研究作品展	13
2.	自然科学教室	17
1)	科学実験にチャレンジ!	
2)	自然観察教室(自然探検隊)	
3)	一般市民対象自然教室	19
(1)	自然観察会	
(2)	星空観望会	
(3)	探鳥会	
4)	夏休み小中学生対象自然教室	21
(1)	植物教室	
(2)	昆虫教室	
(3)	地質探検教室	
(4)	淡水魚教室	
(5)	植物昆虫同定会	
IV	学校・公民館への協力活動	25
1.	小野小学校体験学習への協力	
2.	大山公民館出張展示会	
3.	西有田公民館出張講座	
4.	大山公民館自然教室	
5.	咸宜公民館出張講座	
V	その他	28

I 令和3年度の概要

1. 博物館の組織・運営体制

博物館職員(令和3・4年度)

職 名	氏 名	備 考
館 長	行時 志郎	令和2年4月1日～
主 査	田畑 直樹	令和4年4月1日～
主 査	権藤 香織	令和2年4月1日～令和4年3月31日
主 査	橋本 知佳	平成29年4月1日～
会計年度任用職員	櫻木 健二	平成31年4月1日～
会計年度任用職員	高倉 大輔	令和2年4月1日～
会計年度任用職員	佐藤 仁藏	学芸員補助者(専門分野 植物) 平成15年4月1日～
会計年度任用職員	佐々木 茂美	学芸員補助者(専門分野 昆虫) 平成22年4月1日～
会計年度任用職員	北林 栄一	学芸員補助者(専門分野 地質・化石) 令和4年4月1日～

日田市立博物館協議会委員(任期 令和3年4月1日～令和5年3月31日)

役 職	氏 名	在任期	期間	備考
委員長	古田 京太郎	23 期目	S51.4～	郷土日田の自然調査会顧問(植物)
副委員長	奥森 修二	14 期目	H7.4～	日本野鳥の会日田支部代表(鳥類)
委 員	五島 英司	10 期目	H15.4～	日田昆虫同好会代表(昆虫)
委 員	梶原 浩	7 期目	H21.4～	ひた少年少女発明クラブ代表(科学)
委 員	渡邊 良枝	4 期目	H27.4～	有識者(社会教育)
委 員	木戸 道男	3 期目	H29.4～	元久留米大学講師(地質)
委 員	合谷 勝彦	3 期目	H29.4～	有識者(植物)
委 員	梶原 達夫	10 期目	H9.4～27.3 R3.4～	日田天文同好会会長(天文)
委 員	橋本 裕太	1 期目	R3.4～	農業振興課(河川環境・魚類)
委 員	吉田 能晴	1 期目	R3.4～	日田漁業協同組合専務理事(魚類)

2. 令和3年度入館者数の推移

R3年度月別入館者数(人)

月	日数	大人	子ども	小計	月平均	市内	市外	計
4月	26	207	303	510	20	478	32	510
5月	26	370	334	704	27	618	86	704
6月	26	391	263	654	25	567	87	654
7月	26	206	224	430	17	391	39	430
8月	25	230	281	511	20	429	82	511
9月	26	391	332	723	28	642	81	723
10月	26	241	177	418	16	365	53	418
11月	25	388	642	1,030	41	843	187	1,030
12月	24	222	146	368	15	308	60	368
1月	24	222	136	358	15	280	78	358
2月	24	116	112	228	9	169	59	228
3月	27	252	238	490	18	413	77	490
計	305	3,236	3,188	6,424		5,503	921	6,424

年度別 入館者数	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
	13,490	11,905	15,795	14,611	6,461	6,424

3. 令和3年度博物館日誌

月	日	内容
4	16	令和こどもの森見学(21名)
	17	第一回博物館協議会(委嘱状交付および令和3年度事業計画について)
	29	企画展「宇宙の絶景写真展」開始(～6月27日(日))
5	2	自然探検隊1回目「亀山公園」(16名)
	15	科学実験にチャレンジ教室1回目「スライムをつくろう!」(8名)
	26	皆既月食観察会【雨天中止】
	30	春の探鳥会「萩尾公園」(15名)
6	6	自然探検隊2回目「大原神社」(21名)
	10	小野小学校6年生体験学習「小野谷でみられる岩石と歴史」(3名)
	19	科学実験にチャレンジ教室2回目「クラフト風車をつくろう!」(35名)
7	20	天瀬桜竹の岩石確認依頼(木戸先生よりメノウと同定)
	26	ルーテルこども園見学(30名)

7	17	企画展「水郷日田の川と文化展」開始（～9月5日（日））
		科学実験にチャレンジ教室3回目「紫外線ビーズでストラップをつくろう！」(32名)
	24	昆虫教室（26名）
		植物教室（5名）
	30	日田高校探求基礎2学科来訪（5名）
	31	淡水魚教室（27名）
8	4	桂林公民館見学（16名）
	5	桂林公民館見学（16名）
	7	地質探検教室「月隈山」（6名）
	17	星空観望会【雨天中止】
	22	植物昆虫同定会（10名）
9	5	上津江公民館見学（16名）
	16	小ヶ瀬井堰跡発見連絡（日田市土地改良区）
	17	小ヶ瀬井堰現地確認（廣瀬資料館中島館長）
	18	第二回博物館協議会(作品展審査・教育委員会賞、特別賞決定)
	19	小中学生自然研究作品展開始（～10月3日（日））
	24	テレビ大分ロケ(日隈城)
	25	小ヶ瀬井堰ドローン撮影（KCV）
	28	川津鍛冶工場撮影（企画展動画DVD用）
10	6	KCV 博物館ロケ（「日田街ぶらり再発見」）
	22	五馬小学校見学（7名）
		五和公民館見学（11名）
	23	科学実験にチャレンジ教室4回目「葉脈標本でしおりをつくろう！」(6名)
	29	石井小学校見学（22名）
	30	自然探検隊3回目「月隈山」（4名）
		福岡もえぎ会見学（15名）
11	9	大山小学校3年生見学（8名）
	10	鶴見台中学校修学旅行見学（132名）
	12	桂林小学校2年生見学（24名）
	13	企画展「鍛冶の歴史と日田の鍛冶屋さん」開始（～1月30日（日））
		秋の自然観察会「萩尾公園」（20名）
		ニホンヤマネ巣箱設置「カシノキヅル谷」
	14	大山公民館自然観察会第一回目（講師：合谷先生[自然調査会]）
	16	三芳小学校3年生見学（47名）
		津江小学校見学（7名）

11	18	昭和学園高等学校見学（15 名）
		日隈小学校 3 年生見学（32 名）
		ニホンヤマネ巣箱設置「鯛生金山」
	19	光岡小学校 3 年生見学（98 名）
		月食観察会「桂林小グラウンド」（61 名）
	20	科学実験にチャレンジ教室 5 回目「オリジナルキャンドルをつくろう！」（18 名）
	23	大山公民館自然観察会第二回目（講師：古田先生[自然調査会]）
	25	ニホンヤマネ巣箱設置「小野初島植物園」
12	3	朝日小学校 2 年生見学（15 名）
		日田支援学校見学（17 名）
	5	大山公民館自然観察会第三回目（講師：奥森先生[自然調査会]）
	18	科学実験にチャレンジ教室 6 回目「浮沈子を利用した水族館をつくろう！」（26 名）
	19	日田考古学同好会講演（20 名）
1	7	ニホンヤマネ発見連絡(大山町)
2	6	冬の探鳥会「亀山公園」（20 名）
3	5	第 3 回博物館協議会(令和 3 年度事業経過報告と新年度事業計画について)
	6	西有田公民館出張教室(火山噴火実験)（9 名）
	12	鯛生金山牛ヶ城案内
	13	寒水古戦場案内
	17	日田高校科学部指導
	19	咸宜公民館出張教室(永山城と日隈城)（12 名）
	24	霧島市より博物館視察（3 名）
		産業観光ヒタリズム見学（6 名）

Ⅱ 調査活動

1. 日田を流れる川の生物調査

日田淡水魚同好会とともに、市内の河川に生息する生物調査を毎年行っていますが、今年は日田盆地の南部に位置する高瀬川を中心に魚類調査を実施しました。

高瀬川は三隈川の支流のひとつで、御前岳北面を源流とします。調査では、三隈川の合流地点から 5 kmほど上流の高瀬川ダム付近までの間（p6 調査河川位置図①）の 3 か所で行いました。

その結果、アカザ（大分県絶滅危惧Ⅱ類、環境省絶滅危惧Ⅱ類、水産庁危急種（九州産））やカジカ（大分県絶滅危惧ⅠＢ類、環境省準絶滅危惧）、アリアケギバチ（大分県絶滅危惧Ⅱ類、環境省絶滅危惧Ⅱ類、水産庁減少種）、ヤマトシマドジョウ（大分県準絶滅危惧、環境省絶滅危惧Ⅱ類）などの絶滅危惧種を含む 19 種の淡水魚を確認することができた一方で、アリアケギバチによく似た国内外来種のギギやゴクラクハゼも確認されました。

その他、三隈川本流の台霧の瀬周辺（p6 調査河川位置図②）で夏休み淡水魚教室の安全確認をかねた調査を行いました。台霧の瀬では、スナヤツメ（大分県絶滅危惧ⅠＢ類、環境省絶滅危惧Ⅱ類、水産庁希少種）やヤマトシマドジョウ（大分県準絶滅危惧、環境省絶滅危惧Ⅱ類）などの希少種と、国内外来種のギギを含む 13 種の淡水魚が確認されました。

また、日田漁業協同組合の協力をいただき、三隈川支流の大山川（p6 調査河川位置図③）で火振り漁を実施し、捕獲された魚種の記録も行い、アユやナマズに加え多数のギギが確認されました。

これらの調査結果は、希少種を含む市内の魚類分布情報の一部として記録し、採集した淡水魚の一部は博物館の水辺の生き物コーナーにおいて展示を行いました。



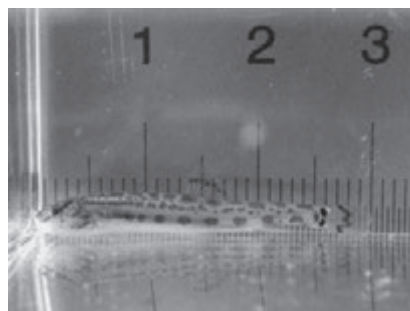
高瀬川での定置網による採集風景



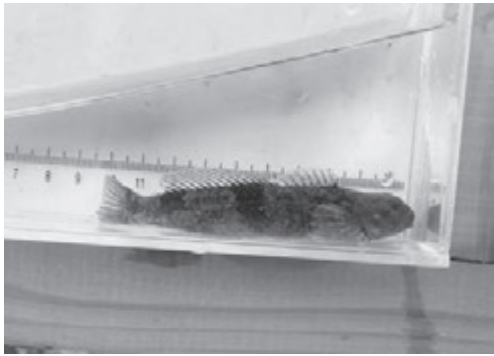
台霧の瀬での調査風景



漁協の協力による火振り漁の様子



ヤマトシマドジョウ



カジカ



石の下に隠れるアカザ



調査河川位置図 (①高瀬川、②三隈川台霧の瀬、大山川)

2. 天瀬町の自然環境調査事業

平成 29 年度に、それまで市域の自然調査を続けてきた郷土日田の自然調査会から市民サービス協働事業の提案をいただき、新たに自然環境調査事業がスタートしました。

この事業は、市内の一つの地域について 3 年間かけて自然環境調査を行い、その成果を報告書にまとめ、博物館の展示として市民に公開するものです。

令和 3 年度は、令和元年度から 3 年間実施した天瀬町の自然調査が終了しました。

この調査では、地質・水質・植生・フロラ・水生昆虫・魚類・両生類・鳥類の 8 項目について、それぞれのグループで神社林や湿原など天瀬地域の特色ある自然環境を調査して、そこで見られる生物種などを記録しました。

得られた成果は、令和 4 年度に天瀬町の自然報告書として発行され、令和 5 年度には市民に楽しんでいただける博物館展示「天瀬町の自然」として公開される予定です。



バイカイカリソウ



ゴマクサ



ノスリ



オシドリ

Ⅲ 教育普及活動

1. 展示事業

1) 企画展開催事業

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う閉館などにより、令和元年度の入館者数を大きく下回る結果となりました。

このため、入館者数の回復を目的に令和 3 年度は年 3 回の企画展を実施しました。

(1) 宇宙の絶景写真展

期 間 令和 3 年 4 月 29 日(土)~6 月 27 日(日) [開館日数 52 日]

入場者数 1,435 人

この企画展は、本年 5 月 26 日に皆既月食が見られることから、それに合わせて市民に宇宙についての知識を深めてもらうために実施しました。写真撮影及び提供は、日田天文同好会に委託し、惑星や星雲、銀河などを中心に約 55 点を展示しました。

また、期間中は子どもたちに宇宙を楽しんでもらうために週替わりクイズを実施し、正解者には展示写真をのせた缶バッジをプレゼントしました。



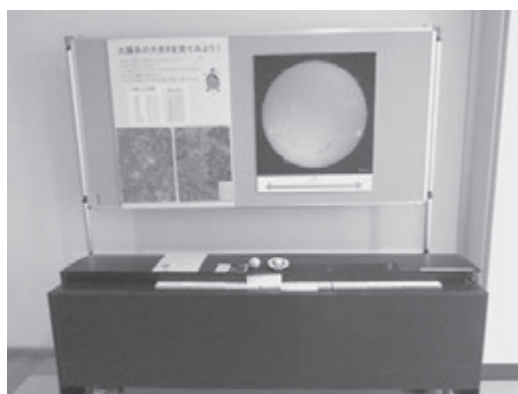
「宇宙の絶景写真展」ポスター



企画展示室内の天体パネル展示



週替わりクイズの景品“天体缶バッジ”



太陽系の大きさを実感する天体模型



令和3年5月3日 大分合同新聞

(2) 水郷日田の川と文化展

期 間 令和3年7月17日(土)~9月5日(日) [開館日数 43日]

入場者数 893人

この企画展では、水郷日田を象徴する河川がどのような場所から湧き出し、どこを流れて日田盆地に集まっているのかを紹介する目的で実施しました。

館内では、「水郷ひたの川と文化」と題したビデオコーナーを設置し、川の源流や川が育む生き物、川を利用した日田の祭りやイベントなどを紹介しました。



「水郷日田の川と文化」展ポスター



ビデオコーナー



漁具の展示コーナー

水郷日田の文化紹介

市立博物館で企画展



パネルなどで水郷の川と文化を紹介している＝日田市上城内町の市立博物館

【日田】日田市上城内町の市立博物館で企画展「水郷日田の川と文化」が開かれている。周囲を山で囲まれた盆地に豊かな清流が集まることから「水郷」と呼ばれる同市と、川によって育まれた文化を紹介している。9月5日まで。

市内には150を超える川がある。それぞれの源流をたどり、流域にある滝などをまとめたオリジナル映像（約10分）を上映。地形や地質によって異なる源流の姿を比較している。そのほか▽アユ漁や鵜飼

い、屋形船など川から生まれた文化▽広瀬久兵衛らによって開削された「小ヶ瀬井路」の歴史▽漫画「釣りキチ三平」のコミックス展示など。

同館は「近年の水害で川は怖いというイメージがあるかもしれない。先祖から伝えられた文化を知り、川との共生を考えるきっかけにしたい」と来場を呼び掛けている。

入場無料。午前9時～午後5時。月曜休館。問い合わせは同館（☎0973・22・5394）。（山本康裕）

令和3年8月13日 大分合同新聞

日田育んだ川の文化紹介

市立博物館で企画展開催

日田市を流れる川が育んだ歴史や文化をテーマとした企画展「水郷日田の川と文化」が同市上城内町の市立博物館で開かれている。9月5日まで。無料。

会場には明治から昭和に撮影された写真や、実際に使われていた漁の道具などが展示され、川と結びついた日田の風土や生活がさまざまな視点で紹介されている。日田盆地を囲む山々から湧き出る筑後川水系と天領日田の繁栄を支えた木材や米の水運、現在も市民に親しまれる祭りやアユ漁と

いった地理や歴史に関する解説も見どころだ。

行時志郎館長は「日田市



川の中をのぞくための道具を紹介する。行時志郎館長

民にとって大切な川がどこから流れてきて、どのような文化を育んできたか知ってもらいたい」と話す。

同市大山町から訪れた財津光和さん（65）は1955年ごろの三隈川での川遊びを撮影した写真を見つめ「昔はこんな風に遊んでいました」と子ども時代の思い出と重ねていた。

午前9時～午後5時（入館は同4時半まで）。月曜休館。博物館☎0973（22・5394）。（中西星登）

令和3年8月22日 西日本新聞

(3) 鍛冶の歴史と日田の鍛冶屋さん展

期 間 令和3年11月13日(土)~翌4年1月30日(日) [開館日数 52日]

入場者数 1,512人

この企画展では、市内1軒のみとなった川津鍛冶工場に焦点をあて、弥生時代に起源を持つ鍛冶屋さんの歴史や製鉄の歴史を各関係機関より提供いただいた写真や絵画、図などの資料を使って展示した他、大正から昭和にかけて、日田林業や日田下駄を支えた市内の鍛冶工場や鍛冶職人さんを紹介しました。

また、館内では、「川津鍛冶工場の鋏づくり」の様子を撮影したビデオを放映し、鋏がどのようにつくられていくのかをビデオでわかりやすく紹介しました。



日田の鍛冶に関するパネルや日本刀（実物）の展示



川津鍛冶工場での鋏づくりの工程 VTR



川津鍛冶工場で作られた刃物類の展示



展示室内の様子



日田地域のくわ（左）と通常のくわの違いを説明する行時館長

日田の鍛冶 歴史を紹介

市立博物館 農具や刀など52点展示

日田市の鍛冶の歴史などを紹介する企画展が同市上城内町の市立博物館で開かれている。

稲作技術が広がって鉄製農具が普及したのが鍛冶の起源。市内でも古墳時代中期（5世紀）の鉄鑄遺跡で鍛冶工房跡が発見されている。会場には農具や刀など

52点、歴史を解説するパネル50枚を展示。行時志郎館長は「日田地域のくわは、山間部で石ころが多い土壌に合わせ、深く食い込むように先端がとがっているのが特徴」と話した。

30日まで。月曜休館。入場無料。問い合わせは博物館（0973・22・5394）へ。

令和4年1月20日 読売新聞

鍛冶職人が手掛けた日田式くわ
などを展示＝日田市立博物館



鍛冶の歴史など紹介

【日田】日田市上城内町の市立博物館で、企画展「鍛冶の歴史と日田の鍛冶屋さん」が開かれている。来年1月30日まで。終戦前の昭和前期、市内には30軒以上の鍛冶屋があった。現在は川津鍛冶工場（大山町）の1軒に減少。企画展では同工場の職人技にスポットを当てながら、鍛冶の歴史や製品の用途などを紹介している。

会場には市内で出土した弥生時代の鉄製品、脇差し、金づちなど52点を展示。写真やパネルなど52点を展示。写真やパネル

（首藤福功）

令和3年12月27日 大分合同新聞

日田と鍛冶 結び付き紹介

市立博物館で30日まで企画展

古墳時代の刀や町絵図など

日田市上城内町の市立博物館（市複合文化施設アオ1階3階）で企画展「鍛冶



日田の鍛冶の歴史を紹介するパネルや、日田で製作されたくわが並ぶ会場

の歴史と日田の鍛冶屋さんの状況を紹介している。博物館によると、日田には古墳時代の鉄器遺跡（南友田町）で鍛冶工場跡が見つかると、大肥中村遺跡（夜明上町）には、鎌倉から江戸期にかけて鍛冶を営む集落があった。「鍛冶屋」といった製鉄が由来とみられる地名（小字）も各地に残る。

でなく、木材を引っかけて積み上げる際に使う「とび口」といった林業用の工具の需要もあり、日田地域に鍛冶工場が集まったとみられる。

展示パネルは、江戸期の豆田町に数人の鍛冶職人が居住していた状況を示す町絵図や、博物館が12年前に市民に聞き取りをして作成した昭和30年頃の鍛冶工場

の位置を示した地図など約50点。弥生時代から近世の鉄器や鍛冶工場の遺跡のほか、鉄鉱石ではなく砂鉄を原料にしていた近世以前の鉄作りも解説している。

会場では、市内唯一となった川津鍛冶工場（大山町）のくわ作りの様子などを撮影した動画も上映。行時志郎館長は「各地にあった鍛冶工場で働いていた鉄を打つ音が、聞かれなくなったのは寂しい。企画展が、日田で伝統技術を受け継がれていくきっかけになればと思う」と話す。

30日まで。入場無料。11、17、24日は休館。同館0973（232）5394。（吉田鍛冶）

令和4年1月9日 西日本新聞

2) 第 59 回小・中学生自然研究作品展

期 間 令和 3 年 9 月 19 日(日)~10 月 3 日(日)

出 展 数 151 点

来場者数 627 人

この展示会は、夏休みに子どもたちが行った自由研究作品のうち、自然科学に関するテーマで研究した中から各学校より優秀な作品を博物館に持ち寄り開催するもので、今回で 59 回目を迎えました。

新型コロナウイルスが夏休みにかけて拡大をしたことや、7~8 月には珍しく長雨が続いたこともあり、昆虫・植物標本作品の数は少なかったものの、宇宙や天候、動植物、化石、火山噴火などをテーマとした様々な作品が会場内に展示され、来場者の興味や関心を引きつけていました。

本年度は、市内 16 校から 151 点が寄せられ、各学校の理科主任や博物館協議会委員などの審査を経て、そのうち 49 作品に教育委員会賞を授与しました。また、報道関係機関や関係団体より 33 作品に特別賞が授与されました。

教育委員会賞

—小学生の部—

日隈小 1 年	長谷 悠李	日隈小 1 年	梶原 明莉	大山小 1 年	清水 恵太
咸宜小 2 年	村本 大地	高瀬小 2 年	栗野 心琴	高瀬小 2 年	桑野 咲良
三和小 2 年	熊谷 尚大	有田小 2 年	小関 蓮華		
咸宜小 3 年	吉光 威人	日隈小 3 年	後藤 蒼空	三和小 3 年	河野 翔太
三和小 3 年	後藤 心優	大山小 3 年	清瀧 奎斗		
咸宜小 4 年	井上 晴仁	桂林小 4 年	山川 侑夏	日隈小 4 年	梅野 くるみ
日隈小 4 年	杉山 蒼太	光岡小 4 年	伊東 想真	光岡小 4 年	遠藤 颯之
有田小 4 年	松下 美桜	大明小 4 年	上田 航太郎		
咸宜小 5 年	阿部 みのり	咸宜小 5 年	宇野 央輔	咸宜小 5 年	緒方 莉子
咸宜小 5 年	菱川 大和	日隈小 5 年	福島 由彩	若宮小 5 年	石倉 玄登
若宮小 5 年	松本 悠歩	高瀬小 5 年	栗野 暖斗	光岡小 5 年	權藤 尊
光岡小 5 年	坂本 悠虎	有田小 5 年	荒川 輝	有田小 5 年	後藤 律
有田小 5 年	長 ちひろ	有田小 5 年	針崎 真帆		
咸宜小 6 年	石井 朱音	咸宜小 6 年	林 湖夏	日隈小 6 年	山田 龍太
三芳小 6 年	重藤 浩太	高瀬小 6 年	平井 涼介	光岡小 6 年	藤木 駿
有田小 6 年	野瀬 照太	小野小 6 年	小袋 吏緒	小野小 6 年	高瀬 咲希
大山小 6 年	江口 心々奈	大山小 6 年	佐藤 心		

—中学生の部—

三隈中 1 年	高倉 紗世	三隈中 1 年	田邊 璃奈	三隈中 2 年	三隅 春奈
---------	-------	---------	-------	---------	-------

特別賞

【毎日新聞社賞】

【西日本新聞社賞】

【朝日新聞大分総局賞】

【大分合同新聞社賞】

【読売新聞西部本社賞】

【地元新聞社賞】

【KCV コミュニケーションズ賞】

【ヒタスタイル賞】

【郷土日田の自然調査会長賞】

【日田自然愛好会長賞】

【日本野鳥の会日田支部長賞】

【日田天文同好会長賞】

【ひた水環境ネットワークセンター賞】

【日田漁業協同組合長賞】

【日田昆虫同好会賞】

【日田市連合育友会長賞】

【ひた少年少女発明クラブ協議会賞】

【淡水魚同好会会長賞】

【淡水魚同好会賞】

【博物館協議会委員長賞】

【博物館長賞】

光岡小 5 年 權藤 尊

桂林小 4 年 山川 侑夏

大山小 6 年 江口 心々奈

有田小 5 年 荒川 輝

有田小 5 年 本松 紗那

若宮小 4 年 吉武 なざね

石井小 6 年 其田 和士

高瀬小 4 年 元木 優愛

高瀬小 2 年 桑野 咲良

咸宜小 5 年 宇野 央輔

高瀬小 5 年 桑野 暖斗

有田小 5 年 長 ちひろ

光岡小 6 年 藤木 駿

三隈中 1 年 梶原 由愛

日隈小 1 年 長谷 悠李

三隈中 1 年 高倉 紗世

桂林小 4 年 山川 侑夏

三和小 3 年 河野 翔太

高瀬小 5 年 桑野 暖斗

三芳小 1 年 三苫 琉花

桂林小 5 年 武内 瑛音

若宮小 5 年 石倉 玄登

高瀬小 5 年 小屋野 裕海

高瀬小 5 年 桑野 暖斗

高瀬小 6 年 平井 涼介

光岡小 4 年 伊東 想真

大山小 6 年 佐藤 心

三隈中 2 年 三隅 春奈

若宮小 5 年 石倉 玄登

桂林小 5 年 武内 瑛音

日隈小 6 年 佐藤 愛菜

桂林小 4 年 山川 侑夏

三和小 6 年 樋口 明佳里

各学校別出展数

—小学校の部—

	学校名	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合計
1	咸宜小	1	1	3	3	6	6	20
2	桂林小				1	1	1	3
3	日隈小	2	2	1	2	1	2	10
4	若宮小			1	2	2		5
5	三芳小	1	1	1		3	2	8
6	高瀬小	1	3	1	3	4	6	18
7	光岡小			4	4	3	3	14
8	三和小		1	3		1	8	13
9	有田小		1		4	6	6	17
10	小野小		1		1	2	2	6
11	大明小				1		1	2
12	石井小						1	1
13	津江小					1		1
14	大山小	1	2	3	3	4	7	20
15	東溪小	1		1				2
計 14 校		6	12	17	24	34	45	140

—中学校の部—

	学校名	1 年	2 年	3 年	合計
1	三隈中	10	1		11
計 1 校		10	1	0	11



作品展示会場の様子



植物・昆虫標本作品の数々



会場内の来館者の様子



標本展示に見入る来館者

小中学生の力作151点
日田市で自然研究作品展

日田市の小中学生が主に夏休みに取り組んだ自然研究の作品展（西日本新聞社後援）が、同市上城町の市立博物館（市複合文化施設「アオハル」）で開かれている。

昨年はコロナ禍で夏休み期間が短縮された影響もあつて中止だったが、半世紀以上続いている恒例行事。今年は小学校5校、中学校1校から計151点の応募があった。

生き物や気象など、疑問に思ふことを自由研究として観察や冊子にまとめた。昆虫や植物を標本にして調べたりした力作が並ぶ。東西五福閣にちなみ、スポーツ雑誌の絵文字（ピクトグラム）を臨いたかるたを作成したユニークな作品も。優秀作は教育委員会賞など表彰が贈られる。

西日本新聞社は、貝毛の空間に巣を作ったツバメのひなの様子などを今年に入つて観察し続け、写真とともに丁寧な記録した桂林小4年、山川侑夏さん（10）の作品「わたしたちの近くにいる野鳥」に決まった。山川さんは研究の成果として「鳥も一羽一羽違って特徴があり、人間と同じように一生懸命に生きていくのがよく分かった」と話した。入場無料。10月3日まで（9月27日は休館）。

（山田賢治）

子どもたちの力作が並ぶ自然研究の作品展

令和3年9月25日 西日本新聞

小中学生が自然研究 151作品、成果見えて

【日田】日田市上城内町の市立博物館で、「第59回夏休み小・中学生自然研究作品展」が開かれている。市内16の小中学校の児童生徒が制作した151作品を展示。観覧無料。

1960年の同館開館の翌年に始まった恒例企画。新型コロナウイルスの影響で中止した昨年を除き、毎年多くの子どもたちが出品している。

テーマは自由。こころは8月に雨が多かったことから「なぜ雲ができるのか」の研究や天気観望記録など。

同館は「子どもたちが身近な疑問をテーマに調べてみたいこと、やってみたいことをまとめた。ぜひ成果を見てほしい」と来場を呼び掛けている。

10月3日まで（9月27日は休館）。午前9時～午後5時。問い合わせは同館（☎0973・22・5394）。

（山本康裕）

ど気象に関するもの、新型コロナウイルスとの関連で手洗いと感染についての調査、植物染めの実験、動植物標本などさまざまな内容となっている。

市立博物館

小学生の151作品を展示―日田市上城内町の市立博物館

令和3年9月25日 大分合同新聞

2. 自然科学教室

1) 科学実験にチャレンジ事業

令和元年度まで、年間 10 回（5 月から 2 月まで月 1 回第 3 土曜日）、各日 4 回（午前午後 2 回ずつ）開催していた科学実験にチャレンジ教室ですが、令和 2 年度は新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため中止となっていました。令和 3 年度は、感染防止対策を講じたうえで、感染状況を考慮しながら年 6 回、各日 1 回（午前）のみで人数制限を設けて実施しました。

実施日	内容	参加者数
令和 3 年 5 月 15 日（土）	スライムをつくろう！	8 名
令和 3 年 6 月 19 日（土）	クラフト風車をつくろう！	35 名
令和 3 年 7 月 17 日（土）	紫外線ビーズでストラップをつくろう！	32 名
令和 3 年 10 月 23 日（土）	葉脈標本でしおりをつくろう！	6 名
令和 3 年 11 月 20 日（土）	オリジナルキャンドルをつくろう！	18 名
令和 3 年 12 月 18 日（土）	浮沈子を利用した水族館をつくろう！	26 名



第 1 回 スライムをつくろう！



第 4 回 葉脈標本でしおりをつくろう！



第 5 回 オリジナルキャンドルをつくろう！



第 6 回 不沈子を利用した水族館をつくろう！

2) 自然観察教室（自然探検隊）

平成 29 年度から、小中学生を対象に日田の美しい自然が残る場所を観察する目的で、年間を通して参加できる自然探検隊員を募集し活動を行ってきましたが、令和 2 年度からは一回ごとに隊員を募集して実施することになりました。また、令和 3 年度は前年度と同様に感染防止のためバスを使わずに身近な公園などで実施しました。

実施日	場所	内容	参加者数
令和 3 年 5 月 2 日（土）	亀山公園	日隈山の自然や水路の生き物観察	16 名
令和 3 年 6 月 6 日（土）	大原神社	神社林の自然観察	21 名
令和 3 年 10 月 30 日（土）	月隈山	月隈山で秋の自然を観察	4 名



亀山公園にのこる日隈城の石垣観察



亀山公園横の水路での生き物観察



大原神社前の小ヶ瀬井路の生き物を発見



大原神社を見学



月隈山のなりたちを学ぶ



月隈山頂上で大木を発見！



**生物や歴史と触れ合う
日田の自然探検隊に20人**

【日田】日田市立博物館が主催する「日田の自然探検隊」が、日田市内中ノ島町の亀山公園であった。約20人の親子が郷土の自然や文化、歴史を学んだ。

昨年度は新型コロナウイルスの影響で開催を断念したため2年ぶり。本年度は計4回を予定している。同博物館職員と郷土日田の自然調査会、日田淡水魚同好会員が説明役を務めた。

参加者は出発前にクイズ12問に解答。探検する中で問題の正解と解説を聞き、「亀山公園の読みはなぜ『かめやま』ではなく『きさん』なのか」などを教わった。

穴井友孝さん(9)は「三和小4年・顔写真」は「ムクノキの宿り木でアンスを」見つけた。お城の跡には縄文時代の矢筈があった」と喜んでいった。(山本康裕)

①水路にすむ生き物を観察する子どもたち②日田淡水魚同好会員(手前)から水路にすむ生き物についての説明を聞く子どもたち③日田市中ノ島町

令和3年5月17日
大分合同新聞

3) 一般市民対象自然教室

令和3年度は、一般市民を対象とした事業として自然観察会(1回)、星空観望会(1回)、探鳥会(3回)を行いました。

自然観察会は、例年春と秋の2回実施していますが、本年度は新型コロナウイルスへの感染防止対策として、春の観察会を中止したため、秋に1回の実施となりました。

星空観望会は例年春と夏の2回実施しており、今年度も5月と8月に予定していましたが天候不良のため中止となり、11月19日の月食に合わせて1回だけの実施となりました。

探鳥会は、例年どおり初夏、秋、冬の年3回実施することができました。

各会の指導は、自然観察会を郷土日田の自然調査会に、星空観望会を日田天文同好会に、そして探鳥会を日本野鳥の会日田地区支部に協力いただきました。

(1) 自然観察会

内容	実施日	場所	参加者数	指導
秋の自然観察会	令和3年11月13日(土)	萩尾公園	20名	郷土日田の自然調査会



萩尾公園のトレイルコースを散策



クスノキの巨木と出会いました

(2) 星空観望会

内容	実施日	場所	参加者数	指導
月食観望会	令和3年11月19日(金)	桂林小学校	61名	日田天文同好会



月食中の満月



月食観望会の様子

(3) 探鳥会

内容	実施日	場所	参加者数	指導
初夏の探鳥会	令和3年5月30日(日)	萩尾公園	15名	日本野鳥の会日田地区支部
秋の探鳥会	令和3年11月28日(日)	大原神社	31名	日本野鳥の会日田地区支部
冬の探鳥会	令和4年2月6日(日)	亀山公園	20名	日本野鳥の会日田地区支部



境内の大木で羽を休める野鳥を観察



水面を泳ぐ冬鳥を観察

【日田】日田市庄手の亀山公園で6日、「冬のバードウォッチング」があった。市立博物館の主催。日本野鳥の会日田地区支部（財津博文支部長）が協力し、市民約20人が参加した。

バードウォッチングは夏、秋、冬の年3回開いている。財津さんが「冬は落葉して鳥が見えやすい。いろんな鳥を見つけて」と呼び掛け、観察を始めた。

参加者は公園周辺の川や森にいる鳥を探した。鳴き声を聞いて種類を当てたり、望遠鏡をのぞいて木に

冬の川や森で「鳥見つけた」日田



上空の鳥を観察する参加者＝日田市の亀山公園

止まる個体を発見したりした。約2時間の観察でマガモ、エナガ、ツグミなど29種類を確認した。

桂林小4年の山川侑夏さん（顔写真真右）、諒君（同左）きょうだい2人も「鳥が好きで、家ではインコを飼っている。イカルやキジバトを見られて楽しかった」と話した。

（山本康裕）

令和4年2月15日 大分合同新聞

4) 夏休み小中学生対象自然教室

この教室は、夏休み限定で毎年行っている子どもたち対象の自然教室です。

(1) 植物教室

開催日 令和3年7月24日(土)

場 所 萩尾公園(採集)・生涯学習交流センター(標本づくり)

参加者 5人

指 導 郷土日田の自然調査会(春末)

午前中に植物観察についてのレクチャーを受けた後、萩尾公園のため池周辺で標本にする植物を選んで採集し、午後は生涯学習交流センターで植物標本の作り方の実技指導を行いました。



親子で植物採集



名前を調べて標本をつくってみよう

(2) 昆虫教室

開催日 令和3年7月24日(土)

場 所 萩尾公園(採集)・生涯学習交流センター(標本づくり)

参加者 26人

指 導 日田昆虫同好会(五島・吉長・井上)

午前中に萩尾公園ため池周辺でトンボ(蜻蛉目)、チョウ(鱗翅目)、甲虫(甲虫目)などを採集し、午後は生涯学習交流センターで標本のつくり方の実技指導を行いました。



指導者といっしょに標本作り



昆虫をよく見て名前を調べる

【日田】日田市立博物館の夏休み教室「昆虫」「植物」が7月24日、市内二串の萩尾公園周辺であり、両教室に小中学生計16人と保護者らが参加した。いずれも1961年から続く恒例イベントで、61年目。

昆虫教室では、講師を務めた昭和学園高の五島英司教諭(52)＝生物担当＝が「トンボは止まった状態のときに後ろ側から網に入れて」と捕り方を指導。同公園内のため池や周辺で、チョウやセミ、アメンボ、ゲンゴロウなどを採集した。子どもたちは、捕った虫の名前の調べ方や標本の作り方を学んだ。きょうだい



ため池で昆虫を採集する子どもら＝日田市二串の萩尾公園

昆虫の捕り方指導 博物館夏休み教室

3人で参加した咸宜小3年の川部真人君(8)＝願望真

「は「クワガタとトンボの標本を作りたい。まだトンボが捕れていない」と話している。」
(山本康裕)

令和3年8月4日 大分合同新聞

(3) 地質探検教室

開催日 令和3年8月7日(土)

場 所 月隈公園

参加者 6人

月隈公園内で、月隈山で採集される岩石を使った浮き沈み実験や岩石に含まれる砂鉄を磁石で取り出す実験、コーラを使った火山噴火実験などを行い、その後、月隈山に築かれた古墳時代の横穴墓跡や城跡、防空壕跡などを散策しました。



コーラを使って火山噴火の再現実験



石垣と火山活動の関係を説明



令和3年9月21日 大分合同新聞

(4) 淡水魚教室

開催日 令和3年7月31日(土)

場 所 三隈川 台霧の瀬

参加者 27人

指 導 日田淡水魚同好会

今年度から新たに始めた事業で、子どもたちにタモ網などの道具の使い方について説明を行い、指導者が一緒に川に入って魚類を採集しました。その後、捕った魚の名前を教えながら、川に生息する生き物の生息環境について学んでももらいました。



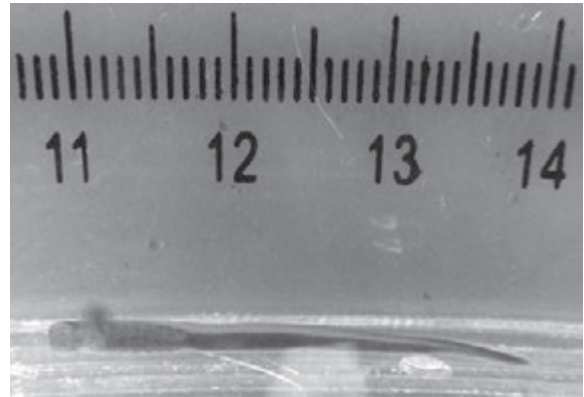
採集方法や安全についてのお話



みんなで川に入って採集開始



捕まえた魚を見ながらお魚の解説



スナヤツメの幼体

(5) 植物昆虫同定会

開催日 令和3年8月22日(日)

場 所 博物館（アオーゼ3階 体験学習室2）

参加者 10人

昭和36年度から続けている会で、夏休みに子どもたちが作成した昆虫や植物標本の名前を先生方が教えています。令和3年度は夏の長雨の影響で屋外での昆虫や植物採集ができなかったため、参加者や標本の数には少なかったものの努力がうかがえる作品が多くありました。



植物同定の様子



昆虫同定の様子

Ⅳ 学校・公民館への協力活動

1. 小野小学校体験学習への協力

日 時 令和3年6月10日

参加者 3人(小野小6年生)

小野小学校より依頼があり、昨年度に引き続き6年生を対象に、「小野谷のなりたちと歴史」をテーマとした体験学習を実施しました。

最初に小野川(殿町)で古生代の結晶片岩(黒色片岩)や新生代中新世の変朽安山岩、鮮新世の凝灰角礫岩や輝石安山岩、9万年前の阿蘇火砕流堆積物などを採集しました。次に小鹿田焼採土場(源栄町)で熱水が通った跡にできる水晶探しを行った後、小野公民館(鈴連町)で9万年前の阿蘇火砕流により埋もれた埋物樹木の見学、戸山神社下宮(三河町)で戸山神社の歴史について説明を行いました。



小野谷の地質について解説



小野川の川原で岩石さがし



小鹿田焼の採土場で水晶さがし

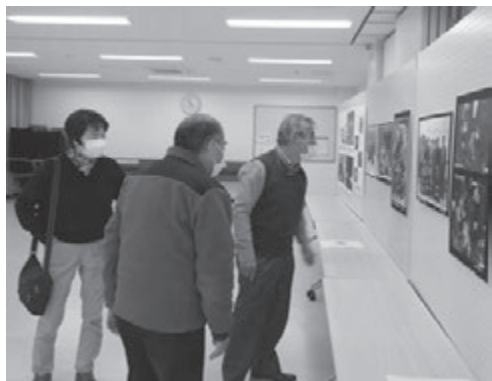


小野川で発掘された埋没樹木を解説

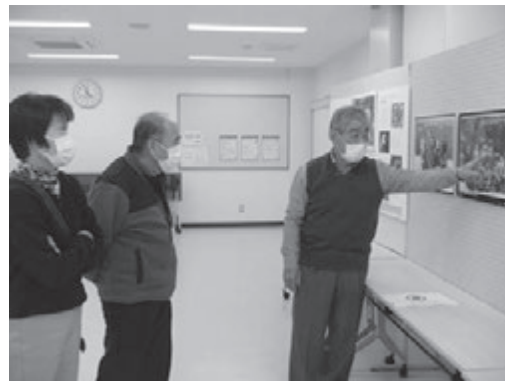
2. 大山公民館出張展示会

日時 令和4年2月8日(火)～3月7日(月)

企画展で行った「鍛冶の歴史と日田の鍛冶屋さん」展は、市内で唯一残る大山町の川津鍛冶工場に焦点をあてた展示であったことから、地域学習を目的に大山公民館からの依頼を受けて展示会場を移して、大山公民館で引き続き展示会を実施しました。



展示会場の様子（提供 大山公民館）



展示会場の様子（提供 大山公民館）

3. 西有田公民館出張講座

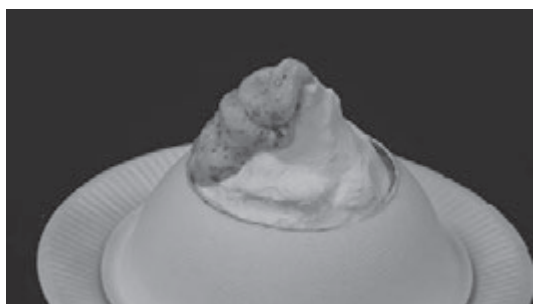
日時 令和4年3月6日(日)

参加者 7名

西有田公民館からの依頼を受け、博物館でつくった火山噴火実験装置を使って、子どもたち向けの体験学習を実施しました。

最初に火山噴火のしくみを説明した後、容器の中に色を着色した水、焼石膏、洗濯のり、バーミキュライト、重曹を入れて混ぜ合わせたマグマをつくり、その上に石膏で形をつかった火山を乗せると、石膏と重曹が反応して火山から発砲したマグマ(溶岩)が流れ出す実験を行いました。

その後、西有田一帯に見られる岩石が9万年前の阿蘇山の大噴火による火砕流堆積物であることを実物を使って説明した後、コーラを使った火砕流噴火の実験や水の入った水槽内に火山模型を設置し、入浴剤を使って火山から噴火する火砕流の流れを紹介しました。



火山噴火でマグマが流れる実験



火砕流噴火の実験

4. 大山公民館自然教室

日時 令和3年 11月14日(日)・11月23日(火・祝)・12月5日(日)

大山公民館より地域の大人や子どもたちを対象として3回の自然教室を開催したいと博物館に連絡があり、1回目は田来原の森の植物(合谷先生)、2回目は烏宿山の森の樹木(古田先生)、3回目は、大山町の野鳥(奥森先生)の順で、博物館競技協議会委員の先生方が指導にあたってくださいました。

このイベントでは、子どもたちが植物の標本づくりにもチャレンジし、来年度の小中学生自然研究作品展に出展する予定です。

大人も子どもも大山の豊かな自然に親しむ～自然観察会を開催

「自然観察会」3回連続講座

成人を対象とした大山の自然観察会を3回連続講座で開催しています。

第1回目は「植物」観察を11月14日、田来原のもみじ谷で行い6名が参加しました。

講師は合谷勝彦さん(郷土日田の自然調査会)。

田来原にはかつて動植物が生息する貴重な湿地帯があったことや、35種類もの植物の名前や特徴を教えていただきました。



烏宿神社周辺を散策。タラヨウ(通称エカキシバ)につまようじで文字を掘ると葉汁が茶色く乾き文字が浮かんできます。

チャレンジ教室 植物標本作り



もみじ谷で採集した植物は、新聞に挟んで2週間かけて水分を抜き、11月6日に教室生が「植物標本作り」をおこない76個の標本を完成させました。

自然観察会3回目
テーマ「野鳥」
日時12月5日(日)
午前10時00分～
場所 榎瀬橋付近
興味のある方はぜひ参加ください。
大山公民館
☎52-3255



多様な植物が生息するもみじ谷

第2回目は「樹木」観察を11月23日「烏宿神社」周辺で行いました。烏宿神社周辺は手つかずの常緑広葉樹の森が貴重で平成4年に市の天然記念物に指定されています。

「郷土日田の自然調査会」会長の古田京太郎さんが講師で「ネジキ」「シデ」「ウラジログシ」などの特徴、「ユズリハ」「カシノキ」の名前の由来、「サカキ」と「ヒサカキ」の違いなど説明していただき参加者は興味深く説明に聞き入っていました。

大山っ子チャレンジ教室生(小学5・6年生)は田来原のもみじ谷で自然観察会を行いました。

合谷勝彦さん、春末阿さんの指導で田来原に生息している植物を観察、採集しスケッチブックに挟んでいきました。



『暁鐘』大山公民館だより 693号より

5. 咸宜公民館出張講座

日時 令和4年3月19日(土) 参加者 11名
咸宜公民館からの依頼を受け、令和2年度に開催した企画展「日田の城跡を歩く」の中から、月隈公園にある永山城(丸山城)についての現地案内を行いました。

初めに永山城の古絵図をもとに城の全体像や築造時期、歴史などを説明し、永山城に備えられていた堀や石垣、大手、搦手、天守、のろし台のあった場所などを観察しながら散策しました。



咸宜公民館だより 4月15日号より

V その他

1. 有田川埋没樹木が東京上野の国立科学博物館特別展で展示

一昨年、有田川河川改修工事により発見され、昨年8月に国立科学博物館に移送された9万年前の有田川埋没樹木の保存処理や樹種鑑定分析が終了し、このうち最大の樹木であるスギが国立科学博物館本館の特別展「植物」で初公開されることになりました。

このスギは、幹幅が約2.5メートルを測るなど当時の自然林の大きさを象徴するものであり、展示の目玉となっていました。入場制限を設けるなどの事態となりましたが、多くの来場者の目を引いていたということです。

日田市で発見「埋没樹木」展示

国立科学博物館の特別展

【東京支社】東京・上野の国立科学博物館で開催中の特別展「植物—地球を支える仲間たち」で、2019年に日田市の有田川で発見された埋没樹木が展示されている。20日まで。

河川改修工事の際に見つかった大小100本以上のうちの1本で、長さ約2.5m、幅約2.5m。約9万年前に阿蘇山（熊本県）で発生したカルデラ噴火に巻き込まれ、表面が焼けて炭化した状態の化石で、樹種は日本固有のスギであることが同館の調査により分かっている。展示では、植物の体を作る細胞組織を調べること、化石の樹種を特定できる一などと説明している。

日田市立博物館の行時志郎館長(57)は「埋没樹木の発見は地元でも大きな話題になった。日田を代表する産品である、日田杉の祖先の姿を全国の皆さんに見ていただければ」と話している。

(逆瀬川由夏)

2019年に日田市の有田川で発見されたスギの埋没樹木。長さ、幅とも約2.5mの大きさで来場者の注目を集めている

令和3年9月21日 大分合同新聞

2. 玖珠川で発見された小ヶ瀬井堰跡

令和 3 年 9 月 16 日、日田市土地改良区より玖珠川に石畳が出現しているのを確認してほしいと連絡がありました。

現地に行くと、玖珠川左岸に長さ 15 メートル以上、幅 5.7 メートルのきれいに並んだ石畳があり、現地の人の話を聞くと令和 2 年の大洪水で現れたそうです。そこで 9 月 25 日に廣瀬資料館中島館長、ひた水環境ネットワークセンター赤司氏、市文化財保護課、K C V と現地を訪れ、ドローンによる写真撮影や計測を行い、廣瀬資料館に残る昔の絵図や昭和 23 年の航空写真、K C V のドローン写真を見比べた結果、位置的に文政 8 年(1825)に築かれた小ヶ瀬井路の堰跡にほぼ間違いのないという結論に至りました。

小ヶ瀬井路は、塩谷郡代の命により、廣瀬久兵衛と草野忠右衛門などが 13 の村々から資金を集めて工事を行ったもので、これにより 500 ヘクタールの農地に安定して水を供給できるようになりました。小ヶ瀬井堰は昭和 11 年(1933)に九州電力により大山川沿いに大山堰が設けられ、女子畑発電所に水を供給するとともに、サイフォン方式により玖珠川の下をくぐらせて小ヶ瀬井路の取水口とする工事が完成するまでの約 100 年間にわたって重要な役割を担ってきましたが、その後の国道建設や山の土砂の流入などにより小ヶ瀬井堰の跡はわからなくなっていました。今回の発見で、人々の記憶から忘れ去られつつあった小ヶ瀬井堰の一部が再び見られることになりました。

現在、玖珠川では洪水対策のための河川工事が進められていますが、日田市内では 4 年生の総合学習で必ず小ヶ瀬井路のことを授業で習っていることから、今後の遺構の保存については、大分県日田土木事務所も工事では残すと話されていました。



今回発見された小ヶ瀬井堰跡と見られる石畳

3. 大山町でニホンヤママネ発見

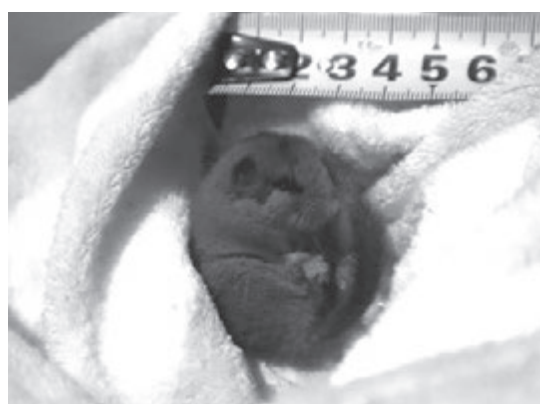
令和4年1月6日に、大山町では初めてとなるニホンヤママネの分布が確認されました。これで、日田市で確認されたニホンヤママネは小野、中津江村、前津江町、上津江町に続き6例目となりました。

このヤママネは、発見者宅の座敷の壁に張り付いていたところを保護されたもので、体長約6cm、尾の長さ約4cmで、まだ幼体である可能性が高いと判断されました。

同種は、国の天然記念物に指定されており、飼育や移動、持ち出しが禁止となっていますが、冬眠期間中であることやまだ幼体であることから、野外に放してもほかの野生生物に害される危険があったため、発見場所付近の屋外に巣箱を設置し、その中に放すことで安全を確保しながら自然環境へ戻れるようにしました。



ニホンヤママネが発見された民家の周辺



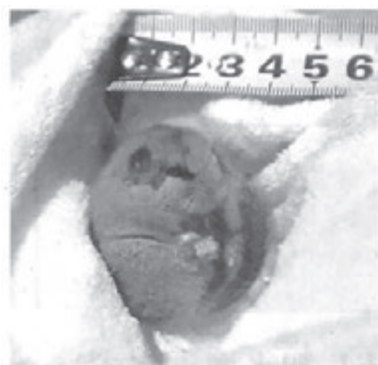
発見されたニホンヤママネ



今回設置した巣箱



巣箱の中で冬眠するニホンヤママネ



令和4年1月20日 西日本新聞

4. KCV 番組「ふるさとの風景」への取材協力

この番組は、ふるさとの自然の豊かさを紹介しようと K C V が企画したものです。博物館協議会委員の合谷先生が監修並びに撮影に協力し、5 月より「曽田の池(天瀬町)」「亀石山(天瀬町)」「川原川(上津江町)」「御前岳とシオジ林(前津江町)」「渡神岳(前津江町)」「上宮町の棚田(上宮町)」「カシノキヅルの巨木(中津江村)」「松原ダム(大山町)」が毎月放送されました。

これまでの放送番組は、K C V コミュニケーションズより博物館へ寄贈いただき、館内で放映しています。

5. 小学生が発見した希少淡水魚の飼育展示

市内在住の小学生が採取した希少な淡水魚を、博物館水槽コーナーで展示しました。この淡水魚「カワヒガイ」は大分県絶滅危惧Ⅱ類、環境省準絶滅危惧に指定されており、近年ではほとんど目にすることもなくなっていたことから大発見となり、新聞にも掲載されました。

もともと日田市に生息している種ですが、繁殖時にタナゴ類と同じく川底の二枚貝に卵を産みつける必要があるため、河川環境の変化に伴う二枚貝の減少などの影響を受けて数を減らしてきたと考えられます。

2014 年を最後に確認できていませんでしたが、今回の発見で、カワヒガイが市内の河川に生存している可能性が示唆されました。



カワヒガイを発見し、博物館に寄贈してくれた穴井瑛大君

ギョギョッ！ カワヒガイ



日田市立博物館で展示中のカワヒガイ

県の絶滅危惧種の淡水魚 日田の穴井君が発見



玄関の水槽で、取ってきた魚を飼育する穴井大君。寒い時期でも観賞できるようにストローを用意している。日田市天神町

【日田】日田の「さかなクン」がギョギョッ！の発見。日田市三和小6年の穴井大君（11）が、同市天神町Ⅱが、県の絶滅危惧Ⅱ類に分類される淡水魚「カワヒガイ」を発見した。県内では筑後川水系にのみ生息しており、市内での確認は7年ぶり。同市立博物館で展示している。

穴井君は小さい頃から大の水生生物好き。網でカニを捕まえたり、イベントでの魚つかみ取りなどに熱中した。時間があれば図鑑をめくり、今では数百種を記憶する。本格的に魚を採集するようになったのは、昨年の休校期間中。新型コロナウイルス対策で遠方には行けないため、近くの渡里川に遡り3〜4日通った。

同博物館によると、カワヒガイは二枚貝に産卵して繁殖する。環境汚染による貝の減少が個体数に影響しているとみられ、2014年を最後に確認されていなかった。

珍しい魚を見つけると、同博物館に持って行くという穴井君。そこでカワヒガイが絶滅危惧種と知り、自分でも捕まえてみたいと思っていた。

4月25日、自宅近くの渡里川で採集中、網に入った魚の特徴を見てすぐにピンときた。「見つけた場所には貝がほとんどない。前日の雨で上流から流れてきたんじゃないか」と冷静に分析する。

「将来は水族館の飼育員になりたい」という日田のさかなクン。自宅玄関の水槽で飼っている魚を見つめながら目を輝かせた。

（山本康裕）